

埼玉退教 だより

第 10 号

発行日 2026/5/15

発行者 石川博 編集責任者 山田正美

発行元 330-0062 さいたま市浦和区
仲町 3-13-10 ヤギシタビル 4F

e-mail:yamadamasami015@gmail.com

戦後 100 年に向かって 若者たちと共に

石川 博（会長）

19日行動に向かう

衆院選が終わって3月に、「毎月19日の国会議員会館前行動」の参加者が増えていると聞きました。2015年9月19日に成立した「安保法制（＝戦争法）」の廃止を求めてコロナ禍の間も途切れることなく続いています。2年前に100回目の集会がありました。昨年9月に10年経過して一段落ということで日退教としての参加要請はありませんでした。久しぶりに先日4/19に（日曜日なので午後2時から）埼玉退教の旗を持って出かけました。

参加者は地下鉄出口から国会正門前に向けて歩いて行きます。国会図書館前は歩道部分が広がっているの、若者たちのグループが思い思いのパフォーマンスでアピールしていました。今まで見たことのない光景です。正門前までは距離があります。歩道はすれ違うだけの幅しかありません。昨年11/3の憲法アクションの時は北風で落ちた銀杏がいっぱいでした。

初の試み 一般公募スピーチ

集会では参加者のシュプレヒコールと主催者や政治家の人たちからスピーチがあります。今回は初めての試みとして一般公募で5人が選ばれました。最初の人は埼玉県坂戸市の77歳の男性と紹介され、立派なスピーチでした。30代の女性は、「子どもは二人とも10代ですが、戦場に送るために育ててきたわけではありません。」と訴えていました。また30

歳の男性は、「私はこれまで『豊かな日本』を実感したことがありません。」と体験を語りました。この日は主催者発表で36,000人の参加者とのことでした。最近、この種の集会の様子がテレビ・ラジオや新聞でも取り上げられるようになってきました。

高市政権に対峙して

公明党の連立離脱を受け、新たに自民と日本維新の会の連立政権の枠組みのもと、高市内閣が発足しました（2025.10.21）。プレーキ役の場面が多かった公明党と違い、維新はアクセル機能です。連立政権合意書にその特徴がみられます。自維連立政権の役割について「戦後80年にわたり、国のかたちを作り上げる過程で積み残してきた宿題を解決する」という。安全保障改革、インテリジェンス（情報収集・分析）機能の強化、外国人政策の厳格化など、これまでの自公政権では見られなかった保守色の強い政策です。具体的な事例としては最近だけでも、「敵基地攻撃ミサイル配備（専守防衛の転換点に）」（→次頁へ）



国会前には36000人が集まった

(→前頁から)「国家情報会議が審議入り(プライバシー、人権侵害に懸念)」、「衆院憲法審で初討議(自衛国など委員独占)」、「殺傷武器輸出解禁(平和国家としての歩みを大転換)」などが挙げられます。

若者へバトンを

国会図書館前で戦争反対などと大勢でアピールしていた若者たちは、SNSなどを通じて「日本列島を、強く豊かに。」というスローガンが意味する高市政権の本音を感じ取っているように思われます。一方、

「決められない政治」に顔を背けていた若者たちの中には高市政権を支持する側についた人もいるでしょう。いずれにしても、若者たちはそれなりの確信をもって自分の意見を発信していくことになります。

高市首相は「決して右傾化などではなく、『普通の国』になるだけだと私は考える」と語ったそうですが、埼玉退教は 80 年も戦争をしなかった世界でも「稀な国」というバトンを若者たちに渡すために走り続けましょう。

福島原発事故は終わってない

福島原発事故から15年。政権は「脱原発依存」をふり捨て、原発を「ベースロード電源」と位置づけ最大限に活用する方針へと舵を切った。事故処理の目途すらつかないのに、次々と再稼働をもくろむ政権、電力会社の暴走を許してはならない。核と人類は共存できないこと、原子力の平和利用は幻想であることを、私たちはあきらめずに訴え続けるしかない。



三瓶春江氏(津島原発訴訟訴訟原告団)津島地区は原発から20km、帰還困難地域で一部解除されたが、生活できる状況でなく、帰還は一戸のみ。未だに住民が帰還できない。

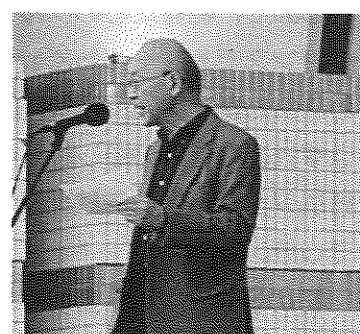
3.7 さよなら原発全国集会 代々木公園



「孫に原発を残して死ねるか」これぞ退教会員の切実な思い(中央に埼玉からの参加者)



佐々木かな氏
柏崎刈羽原発再稼働の是非を考える新潟県民ネットワーク。柏崎刈羽の再稼働は決まったが、闘いは終わらない。



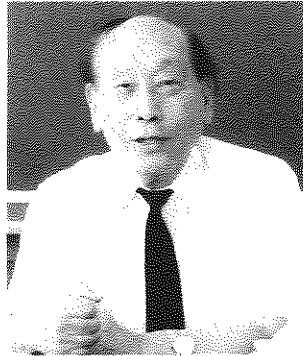
長谷川公一盛岡大学学長
全国800近い国公立大学の学長の中で唯一、この人だけが、原発反対を訴えている。力強いメッセージを発した。

先輩たちの思い出(2)

沖松信夫氏

倉持 光好(南支部)

私も70代になり、現場を離れて10年以上になりますが、教育関係、労組関係で、お世話にもなり、尊敬する方々の思い出を綴りたいと思います。今回は退教会長だった沖松信夫さんです。



安保闘争(1960年)当時、埼玉県高教組初代委員長でもあった沖松さんは、日中友好元軍人の会代表幹事をつとめられるなど。日教組の闘いの伝統を引き継ぎ、様々な分野で活躍されてきました。

戦争体験から日中友好へ

2002年、新年対談インタビューで武井委員長と1時間以上にわたりお話を伺い、私が記録し、埼玉教組ニュースの記事にしたことを思い出します。(埼玉教組ニュース第251号)沖松さんは、ご自身の戦中、戦後の生きてこられた様々な体験や運動のあり方について、高教組委員長、定時制高校教員などの経験を踏まえ、熱意を込めて語ってくださいました。その時の沖松さんからの誘い、日中友好元軍人の会(現「8・15」の会)は、元軍人でなくても入れますよ、どうぞということで、当時の武井委員長と倉持書記長が加入した覚えがあります。あれからもう24年以上の月日が流れました。

その記事から引用させていただきます。

「陸軍士官学校を出て、陸軍航空隊の特攻隊員として5月に訓練が始まり、3カ月で出撃予定でした。ご飯も死までの逆算で、あと何回というふうに数えましたが、夜は怖いとか寂しいというのではないのですが、時間がもったいなくて、よく寝られませんでした。起きていることが生きていくことでしたから。戦争が終わって大学に入りました。なんでこんな馬鹿

げた戦争をしたのかと勉強したかったです。そして、日中友好のために動き出したのです。

…今後、生徒たちに考える力を身につけるためには、教師が深く考える力を身に付けていなければいけません。そして、考えをぶつけ合い、切磋琢磨することが重要でしょう。昨今、ロボットが開発されていますが、ロボットは涙が流せません。人間と人間がぶつかり、感情をぶつけるのが基本です。機械の便利さに頼らず、人間と相対するという基本を大切にしたいと思います。教師に人間性、感情、愛情がなくては、生徒は心を動かしませんし、大切なことが生徒に伝わりません。教師が人間としてつきあう場、それが組合の場です。教師として知性を磨き、人間性を取り戻すのは組合という場しかないと思います。」

その後、私のところへ、電話連絡やはがき連絡で、日中友好元軍人の会(8・15の会)の機関誌の原稿を依頼されたことが何度かありました。投稿すると、そのたびに、それは丁寧な手書き文字で感想や礼状を書いて送っていただきました。

囲碁の達人

時代は下って、2018年の夏、埼玉退教の恒例の囲碁大会にも参加しないかという連絡をいただき、下手な私も車で熊谷の会場に行き、対戦させていただきました。当時、四段の腕前の沖松さんは段位さえもたない初心者の私と対戦して下さいました。何目も置かせていただいた対戦でしたが、私はあっという間に撃墜されました。先生、お強いんですね…と言う私に対して、「いや、いや…。どうすれば強くなるか、教えてあげますよ」と言ってくださったのですが、その後、指導をいただくチャンスなく残念でした。沖松さんは、90歳を超えるご高齢にもかかわらず、熊谷の会場までプリウスを颯爽と運転されてきたのを覚えています。さすが、元パイロット。安全運転でした。

2022年1月に97歳でお亡くなりになりました。6月、偲ぶ会が開催され、埼玉退教、埼玉高教組、埼玉教組、関東日中平和友好会、撫順の奇蹟を受け継ぐ会、不戦兵士・市民の会、村山談話を継承する会などの代表から挨拶がありました。

ガラスの天井と“ガラスの下駄”

武井誠（人間支部）

女性議員激減

3月4日午後、お茶の水の連合会館大会議室で、日本退職者連合主催による「ジェンダー平等推進のための学習会」が開催されました。

講演のテーマは「女性の政治参画」、講師は立憲民主党の辻元清美参議院議員。今回の解散総選挙で、衆議院の女性議員数が73人から42人に激減、しかしそれ以前からも女性議員の数は少なく、長く続けた国会議員はさらに少なく、25年表彰を受けた議員は男性538人、女性議員は18人（去年は辻元清美、野田聖子、高市早苗の3人）。地方議員も同様で都道府県議会における女性議員の比率は14.6%、男性議員だけの市町村議会もいまだ多く、世界との格差が大きいとのことでした。以下、印象に残った点をいくつか記します。

・高市首相は、トランプに媚びたり、討論をすっぱかしたり、答弁から逃げたりしている。悪い意味で女性であることを利用しているようなところがある。しかし一方、女性議員が増えると、いろいろな人が出てくるという側面もある。「だから女性はダメだ」という議論にはくみしない。

見えない下駄をはかせてもらっている男性

・女性にはガラスの天井、男性にはガラスの下駄。男性のほうが外に出て経験を積むチャンスが多く、見えない下駄をはかせてもらっている。逆に女性議員には、家族の反対、出産、子育て、有権者からのセクハラなどの負担が男性議員よりも多い。

・しかし、選挙と子育てを両立させている地方議員がトップ当選（岡山県）するなど新しい動きもある。政党内にハラスメント相談窓口を作ることも取り組まれている。

そのほか性別、そして世代間の分断は戦争へと

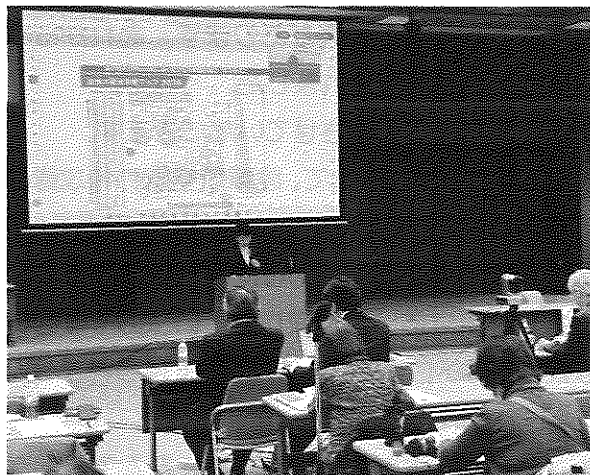
つながる、連帯を！といった重要な指摘もなされていました。

衆院選後、元気な人は一人もいない

講演後、フロアからの「衆院選で厳しい結果が出た直後なので心配したが、お元気そうでよかった」という声に対して辻元議員は「元気はない。今、元気な人なんていないんじゃないか。しかし、AIに相談したら『とにかく自分の足で立ってろ。そして価値を語れ、残せ』とアドバイスを受けた。がんばりましょう」と。確かにそうだなと思い、AI利用の件はユーモアとして受け止めることにしました。

参考 連合は2026特別国会に向けて、ジェンダー平等について次の要求を行っています。

- 1 第6次男女共同参画基本計画の策定、社会制度、慣行の見直し。
- 2 女性の社会的尊厳の確立に向けた施策推進、「選択的夫婦別姓」早期実現。
- 3 「女性差別撤廃条約選択議定書」の早期批准。
- 4 「ILO第111号条約（雇用及び職業についての差別待遇の禁止）」の早期批准。



「とにかく自分の足で立とう」と辻元清美氏

赤上光司(高校支部)

私は、いつでも、どこでも、雨にも風にも負けず、酒を呑んできた。手術の前日も病室で隠れて大酒。部屋中がアルコール臭くなった。イスラム圏（イランは別）でも、平然と酒を呑む。取り上げられ、目の前で廃棄されたり、蹴飛ばされたこともあった。でも反省しない。私から酒を奪う奴は敵だ。敵とは闘う。最大の敵は警察。そして、ついに私は警察に勝利した。越谷警察署の取り調べ室で、堂々とビールを呑んだのだ。なんで、そんなことになったのか、そのいきさつを紹介しよう。

ぬるいビールは許せないが…

初めそこがレストランとは気づかなかった。越谷市大袋駅の近く、アフリカ系の雑貨屋。

日本人の客は

なく、アフリカの品物が、売られている。何故か、妙にシャンプーがたくさんある（日本のシャンプーじゃ、ダメなのかな？）。

雑貨屋の端、会計のおばさんの横にドアがあり、入ると、そこはレストランだった。客はいない。私は中央のソファに座り、メニューを見る。ビールはナイジェリアのしかなく、一本千円だった。頼むと、生ぬるいビールが来た。ぬるいビールは、絶対イヤだ。許せない。しかし、ここはアフリカだ。日本だけどアフリカなんだ、と自分に言い聞かせた。

食事は1500円の定食。それを頼む。ライスはなく、イモをすり潰したようなのが来た。これは以前、アフリカで食べた気がする。メインは、煮込み。羊肉と野菜が、豪快に盛られてる。食べてみると、美味しい。もつ煮と肉じゃがを足したみたい。スパイシーで、イモごはんにもあう。値段は高いけど、ここは、大袋でも、アフリカの大袋だから、ガマンだ。ひとり、食べてると、次の客が来た。2メートルはあるかと言う、アフリカ系の巨人だ。巨人

は、奥のカウンターに座った。なにか酒（のようなもの）を呑み、たまに私を睨んだ。「なんで日本人がいるんだ」と思ってるのかな。私は両手をノーノーと振り、「睨まないで」とお願いした（つもり）。巨人は睨まなくなった。

突如、目の前で乱闘が

それから、アフリカ系の3人組の若造が来た。3人組は、ドアそばのテーブルを囲み、わめいている。そいつ等を見ると、巨人はスッと立ち上がり、帰ろうとした。私の前を過ぎ、テーブルの横を通る。その瞬間、3人組の1番チビが、飛びかかって、巨人の顔にパンチした。アフリカ語で、何か言

ってる。私は、そのパンチをリアルタイムで、見ていた。

ここはアフリカだ 大袋だけど

チビは、ムチを出して、巨人の顔めがけて打った。ムチは面白いように命中した。「ムチって、あんなにあたるのか」。初めて見るムチの威力に、私は、感心する。「あんなチビが巨人に勝ってる」。

巨人は血だらけになりながらチビを捕まえ、殴り、放り投げた。チビは、私めがけて飛んで来た。「ぶつかる」と思った。チビは私の目の前をコロがる。チビは、不屈の精神で立ち上がり、無謀にもまた、巨人に組みつく。「これはホントのケンカだ。ホントのケンカなんて初めて見た」。私は、特等の観客席にいる気分だ。2500円の見物料は安い。

警官突入する

雑貨屋のおばさんが、走って来た。おばさんは、巨人に抱きついて、泣きながら、何か叫んでいる。チビは、少ししらけて、離れた。おばさんの様子を見ている。よく分からないけど、おばさんの涙で、この闘いは、終わったのかな、と思った時だった。

パトカーのサイレンが聞こえ、6、7人の警官が、レストランに突入して来た。（つづく）

こんな世界に 誰がした！？

クルドヘイト裁判報告

「美しい村」はどこに

今、排外主義が吹き荒れ、特にクルド人が標的にされており、何とか食い止めようとヘイトデモを行っている日の丸街宣俱樂部代表の渡辺賢一を相手取りさいたま地裁で裁判が進行中である。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

茨木のり子は「六月」という詩で書いている。

どこかに美しい村はないか
一日の仕事の終りには一杯の黒麦酒
鍬を立てかけ 籠を置き
男も女も大きなジョッキをかたむける

どこかに美しい街はないか
食べられる実をつけた街路樹が
どこまでも続き すみれいろした夕暮は
若者のやさしいさざめきで満ち満ちる

どこかに美しい人と人との力はないか
同じ時代をともに生きる
したしさとおかしさとそうして怒りが
鋭い力となって たちあられる

「戦争と排外主義は一緒にやってくる」

21世紀も4半世紀が過ぎた今、法と理性ではなく力と暴力が地球を覆いつくそうとしている。世界中の「美しい村」や「美しい街」が壊されている。両大戦を経験した人類は、「破壊と殺戮」の戦争を否定し、誰もが日々の暮らしを楽しみ、子どもたちの末を信じて生きる「美しい村・街」を作るはずではなかつ

小川 満（高校支部）

たのか。

戦後日本でこれほどまでに外国人へのヘイト（排外主義）が叫ばれたことはなかった。グローバル化の時代、

外国人が増えてきたことが一番の要因だが、やはり、政府の外国人政策（移民政策）がきちんと行われてこなかったことが大きい。朝鮮人・台湾人への戦前の扱いが、外国人を単なる労働力とみて人間扱いしないまま戦後の入管行政に引き継がれてきている。そして、外国人排斥が票になると見た政党・政治家がヘイトスピーチを選挙で垂れ流し、政府は「ゼロプラン」政策で難民申請者を強制送還し、在留資格を持っている外国人に対しても悪質なじめ・嫌がらせを行っている。政府がこれだから、三重県の国籍条項復活や茨城県の通報褒賞金、そしてネットでのヘイトスピーチがなくなる。

外国人は日本に対してどういう感情を抱くだろうか。日本に来てくれるだろうか。外国人は今では日本のエッセンシャルワーカーの地位を占めている。外国人を排斥することは、天に唾することであり、自分の首を絞めていることでもある。排外主義とはそういうことだと、高市支持者や参政党支持者は分らないのだろうか。（次頁へ→）



3月20日、秋ヶ瀬公園でおこなわれたクルド人の祭「ネウロズ」。ここにもヘイトを売り物にする戸田の河合市議が押しかけて混乱を招いた

(→前頁から)

過剰警備の裁判

クルド人裁判は、2025年4月に第1回目、7月、9月、26年1月と4回行われ、5月13日が第5回目となる。裁判の傍聴は、トラブルを警戒してか物々しい警備体制で、普通の傍聴ではありえない入廷前に所持品の預かりと空港並みのボディチェックが行われ筆記用具のみ持ち込み可。あまりの過剰警備に傍聴者からは税金の無駄遣いだと怒りの声。

裁判の中味は、原告の口頭弁論はあったが、被告代理人の杉山程彦弁護士からは、原告の弁護団が80数名もいて被告へのいじめだという弁論があった。傍聴席から爆笑が起きたが「笑うな！」と傍聴者に怒鳴ったりして、なほ神奈川弁護士会から数回処分を受けている弁護士だと納得した。被告の渡辺は、こわもてで原告側や傍聴席をにらみつけている状況である。今後、証人尋問などが行われ、年度内の結審が見込まれている。

生活の場を脅かされるクルド人

一方、クルド人の生活環境は裁判とは関係なく悪化している。政府・入管のゼロプラン作戦によって、非正規滞在者が犯罪者扱いをされ強制退去させ

られている。親子が引き裂かれ、残された子どもたちに明日への希望があるのだろうか。

「仮放免者」は車の免許更新も出来ず苦しめられているが、子どもたちも厳しい境遇に置かれている。高校生であれば、就学支援金が支給され授業料が無償になるが(朝鮮高校は除外)、埼玉県では無償措置が行われておらず、支援団体が学校・県教委と交渉を行っている。今年度になって、無償化拡大に伴って、従来適用されていた留学生には支給しないなど、外国人いじめがひどくなっている。

公園でも遊ぶことができない

それと、体感的な息苦しさをクルド人は感じているようだ。いつ暴言を受けるか分からない、いつ盗撮されるか分からない、ということで、子どもたちも公園などで遊ぶことも出来なくなった。以前はこんなことはなかったと話していた。

川口・蕨に住むクルド人たちは、トルコから不慣れな日本にやってきて平穏に過ごしたいと願っている。彼らと共に仲よく生きる社会を作っていきたいと思う。3月の埼玉県議補欠選で日本大和党の古川けいごが繰り上げ当選となり、露骨な排外主義者が地方議会でも勢力を持とうとしている。裁判ともども注視していきたいと思う。

石川一雄さん一周忌追悼集会

3/11 狭山市市民会館

会場では「差別裁判うちくだこう」の歌が流れていた。1970年代に高校生だった私は、デモの時によく歌っていたのを思い出す。「石川青年取り戻そう」との歌詞もむなしく、無実を晴らせずに石川さんは亡くなった。そして1年、現在、第四次再審請求が行われている状況だ。

「天国から迎えに来る日は何時の日か まだまだ逃げぬ勝利の日まで」と詠んだ石川さん。高齢となってもジョギングで身体を鍛え、健康維持にも常日頃から気を遣っていたのは、再審無罪を勝ち取る強い決意があったからだ。それだけに、突然の逝去は石川さん本人が一番無念だったに違いない。

袴田事件を機に、再審法改正も大詰めを迎えている。石川さんの思いを胸にこの最大の冤罪事件を晴らしていこう。(山田記)



挨拶に立つ石川早智子さん

九条が危ない！憲法大集会

50000 人が集結

会場の有明防災記念公園に行くために、ゆりかもめの有明駅を降りると、すでに長蛇の列ができていた。集会へ参加する人が詰めかけていて大渋滞だ。もう少し早く来ればよかった、と少し後悔、でも少し嬉しい。やはり近年の政治情勢から危機感が広がっているのだろう。平和憲法、この80年で最大のピンチを迎えているのかもしれない。私たち退教会員は15人の参加だったが、周りを見ると今回は若い人、女性、家族連れの参加も目立った。（武井さん、三世代家族で10名参加！）平和憲法のバトンを将来世代へ引き継いでいこう。（山田記）



家族連れで写真を撮る人も目立った

昨年、久々にお会いしたAさんから、退教加入の連絡をいただいた。ご本人の承諾を得て、ここで添えられたメールの文面を紹介する▼「いつ鶯が鳴き始め、いつまで鳴いているか、蝉の鳴き声で夏の季節の移り変わりを感じ、仲秋の名月を離れた友達は見ているかな、と思いつつ生活してきました。ふと目が覚めて入会いたしました。医者通いの毎日です。生活環境も今までとは大きく違ってきましたが、在宅勤務ではありませんが在宅交流は便利になりました。離れていますが、気持ちだけは繋がってほしいと思います。よろしくお願いします」▼居住地が

亀甲 年功

なり遠いので、退教の諸行事への参加は難しいが、遠くでも気持ちでつながってほしい、とのこと▼Aさんのメールを読んで、退教という組織の初心に帰った思いがした。考えてみれば、

埼玉で組合を立ち上げた頃も今も、やっていることはずっと変わらないのだ。人権、平和、民主教育を守ること、そして将来の世代に引き継いでいくこと。在職時も退職時も同じ、その気持ちで会員同士が繋がっていくのが退教という会である▼情勢は現職の頃と比べて格段に厳しい。苦戦を強いられている現職組合を援護する意味でも、より多くの退教会員と繋がってほしい。（Y）

活動報告・予定

2月20日 『埼玉退教だより』2月号発行

3月4日 退職者連合院内集会

3月7日 さよなら原発全国集会

3月10日 井戸川裁判控訴審判決

3月11日 石川一雄さん一周忌追悼集会

3月29日 関東ブロック代表者会議

5月15～16日 沖縄平和行進

6月19日 日退教組織代表者会議

6月26日 埼玉退教第3回常任委員会

7月16日 退職者連合総会

7月24日 地公退定期総会

9月4日 第4回埼玉退教常任委員会

9月13日 日退教第1回ブロック代表者会議

9月14日 地公三単産地公退高齢者集会

9月15日 退職者連合全国高齢者集会

10月1日 五者合同学習会

10月2日 日退教組織活動交流集会

10月9日 埼玉退教囲碁大会

10月16日 埼玉退教定期総会

11月13日 第5回埼玉退教常任委員会